

日本を美しくする会・鍵山教師塾主催

第 32 回「鍵山教師塾」 in 朴の森

感想文集



令和 7 年 6 月 21 日・22 日

1. 日程

| 22日（土） | 23日（日） |
|-------------------------|----------------------|
| 10:30-10:50 集合・受付@鍵山記念館 | 7:00 バス・ホテル出発 ※朝食は各自 |
| 11:00 開会式@鍵山記念館 | 7:40 防府市立牟礼中学校着 |
| 11:30 昼食@耕心の里→施設見学 | 8:15 朝礼 |
| 12:30 実践報告 | 8:45 トイレ掃除実習 |
| 13:30 講話 代表 鍵山幸一郎氏 | 10:45 着替え |
| 14:20 講話 副代表 藤野貴之氏 | 11:15 閉会式・解散 |
| 15:00 グループ対話 | 12:00 バス出発 |
| 15:45 初日閉会 | 12:40 バス・新山口駅着 |
| 16:00 掃除道具準備実習・片付け | 13:00 朴の森着 |
| 17:00 懇親会@一隅の里 | 13:30 バス・山口宇部空港着 |
| 18:30 バス出発・ホテルへ | |

2. 参加者

29名

3. 活動の様子

1日目





2日目



★ ★ 埼玉県 東京掃除に学ぶ会 ★ ★

なんて充実した研修だったのだろうと、しみじみ感じています。一年ぶりに再会した皆さんが明らかに魅力を増しており、その姿に驚きと感動を覚ええました。この一年間、昨年の学びを日常の中で丁寧に実践されてきたことが、言葉や振る舞いの中から伝わってきました。中でも、実践報告のレベルの高さには圧倒されました。単に意識を変えるだけでなく、実際に行動を起こし、結果を出されている姿に心を打たれました。恥ずかしながら、私はまだ「深めれば広がる」という境地を実感できていません。だからこそ、これからは私も、実践を通じてその意味を自分自身で体感していきたいと思いました。

岡本さんが整備されている朴の森の倉庫には、随所に工夫が施されていて、その美しさに目を見張りました。「倉庫を育てる」という言葉の通り、「これはベストか？」と問い続けながら工夫を重ねておられる姿勢に、深い学びを感じました。倉庫の整理が心の荒みを取り除くことにつながるというお話も印象的で、倉庫ひとつとっても、朴の森には学びの宝がたくさんあると実感しました。

また、幸一郎さんのお話「なぜトイレ掃除なのか」も心に残っています。

「人は、一生懸命な姿に感動する」

「感動する心を育てるためのトイレ掃除」

この言葉に深く納得しました。街頭清掃でトングを使わない理由も、実際にその背景を伺い、初めて意味を理解できた気がします。

トイレ掃除は、何度経験しても新たな気づきが得

られる学びの場です。今回は小便器を担当しましたが、自分ではきれいにしたつもりなのに、隣の方が「ここも汚れ、落ちるんやで」と教えてくださいました。その部分は模様だと思い込んでおり、汚れとすら気づけていなかったのです。この経験から、「先入観」「思い込み」「決めつけ」の怖さを強く感じました。日常でも、見えていない問題を見過ごしているのではないかととさせられました。夢中になりすぎて、周囲が見えなくなることの危うさにも気づき、深く反省しました。人は一人では気づけないことが多くあります。だからこそ、そっと指摘してくれる存在は本当にありがたいものです。今回も、汚れに気づかせてくださった方が、まるでスポンジのようにやさしくアドバイスしてくださったおかげで、私も素直に受け取ることができました。トイレ掃除は、コミュニケーションのあり方そのものだ、改めて感じました。

同じ班のお子さんが感想発表で「人がやっていることを真似するっていいな」と話していたことも印象的でした。「いいな」と思ったことは素直に真似してみる。そんな素直さが、学びや成長には欠かせないことだと再確認しました。

皆さんと生きた学びを共有できるこの時間が、どれほどかけがえのないものかを実感しています。そして、幸一郎さんの「年齢は関係ない。人は、いくつになっても変われる」という言葉にも、私自身とても励まされました。未熟で、なかなか成長できない自分をあきらめず、これからも前を向いて歩み続けたいと思います。

今後の実践についてですが、まずは山崎先生の学校でのトイレ掃除に参加させていただきます。

さらに、「一日一話」にしっかりと向き合い、その意味を深く考え、自分なりに深めていくことを習慣にしていきたいと思っています。また、実践報告の中で紹介されていた宅配業者の方への差し入れや、ゴミ拾い、掃除道具の整備など、自分が「いいな」と思ったことを積極的に取り入れていきます。

「人のために使う時間を増やすこと」として「これはベストか？」と問い続ける姿勢を忘れずに、日々を丁寧に過ごしていきたいと思っています。

★ ★ 埼玉県 一般 ★ ★

まず初めに、この度は貴重な研修に参加させて頂きありがとうございます。弊社では以前より新入社員研修の一環でトイレ掃除の実践研修を行っておりました。社内での研修には何度か参加させていたいただいておりましたが、本家本元の研修参加は初めてでした。2日間にわたる研修の中で感じた事として

- ①細かいところに気を配る
- ②工夫をする
- ③長期的な価値観を共有していく事の大事さ

大きく上げるとこの3つを強く意識しました。

- ①の細かいところに気を配ることに限っては、掃除道具の種類や手順、具体的な指示の出し方など。特に支持の出し方に関しては、2日目の実践研修の際に岡本さんがおっしゃっていた「具体的に伝えることにより、ばらつきがなくなり仕事がうまくいけば相手を褒めることができる」と、自分も相手も気持

ちよく過ごしていくための考え方なのだと感じました。まさに一日目の鍵山さんのお話の中であつた「自分分は二の次」の精神性を感じました。

②の工夫をすることは細かいことに気を配るのに通じますが、掃除道具を拝見させていただいた時に、道具をひっかけろプの結び方、道具の手入れの際に使うスプレーの使い方、洗車の為の桶に水をためる際のホースの固定金具一つにとっても細やかな工夫がされており、一日目の藤野さんのお話にあつた「一日一話」に対しての講義の中の「体を使う時こそ頭を使うべき、たとえわずかずつでも、工夫をするからこそ、無駄のない掃除をすることができます。」とはこのことなのだと感じました。単純なこと

にこそ頭を使い意義と価値を見出していく、創意工夫を重ね周りの環境を良くしていき自分も周りも後味のいい人生を歩んでいく事が「掃除に学ぶ」の本質なのではないかと感じました。

③長期的な価値観を共有していく事の大事さに関しては、先に挙げた①も②も続かなければ意味がない。言い換えるところまで続いているから価値があるものになっているのだと感じます。また、単純に掃除の仕方を伝えるのではなく、その価値観や考え方を掃除を通じて伝えていく事によって、ここまで大きな影響の輪となり広がったのだと感じました。

なので、今回の研修も受けただけで終わりではなく、その後の実践がどれだけ継続できるのか。今回学んだ考え方や感じ方をどれだけ自分の行動に落とし込めるのかが一番重要な課題だと感じます。少しでもこの素晴らしい考え方を周囲に伝えていけるよう社

内でも実践していきます。ありがとうございました。

★★ 山口県 一般 ★★

「娘の進化が止まらない!」

今回初の参加をさせていただきました。私自身、掃除としては3回目となります。3回目にして思わぬことが叶い、2日目の掃除に中三の娘とともに参加させていただきました。その後の娘の進化が止まらない!!!ので、それをご報告させていただきます。まずお掃除中の休憩時間にて:

思春期の娘は新しい場所も人間関係も、緊張しやすい性格でとても苦手なのです。路佳さんがぼろっと話してくださった幼少期のお話が娘とよく似ていて、話が盛り上がり、娘は自分の絵を皆さんに見せました。それを皆さんでとても褒めてくださったこと、

それから数学と絵が好きで美しいものが好きな子だよと優しい言葉で褒めてくださったのです。娘の緊張は一気に解けて、そこから潔癖なところがある子

なのに、嫌がらず積極的に掃除をしていました。顔に雑巾を伸ばした時の水が跳ねたそうなのですが、後でそつとそのことを言ってきました。一度他のことに使ったもので、顔を拭くなど嫌うので、持ち合わせているものがないと伝えると、自らおすすびについていたおしぼりを思い出し、それで顔を拭くくらいいいや!と言いきつと拭いていました。この時点でもものすごい変化で、私は内心驚きっぱなしです。帰りの玄関で、私がふと娘の靴をとって手前に置いたら、娘がありがとうと言いました。あまりそんなことを言わないので、私が褒めると私を押し退けて

先に玄関を出て走っていき、その様子が可愛くて夫に伝えました。すると夫が「いいことをしたから、同じだけ悪いことをしないと恥ずかしいんや」と言い、それを聞いた娘は我が意を得たりとニヤニヤしていました笑。その後も、外食先で率先して家族分の片付けをしてくれたり自分で起きられるようになったり学校へ行く準備も早くなったり、私がやることに、きちんとお願いしたり、お礼を言うようになりました。なんというか、物事の後と先をわかるようになった感じです。自分の行動や感情にも、俯瞰する視点が感じられるようになりました。たった一回のトイレ掃除の中に込められた、心を育てるメソッド。その奇跡をこの目で、日々見ています。同じ班で掃除をしてくださった方、皆様に本当の感謝の思いでいっぱいです。そして、都合のつく限りこれから親子で一緒に参加できればなあと思っています。どうぞよろしく願いいたします。

★★ 東京都 教員 ★★

3年目の鍵山教師塾。3朴の森が終わりました。参加者一人一人が、これまでの2回よりもさらにステツブアップしたことを感じた2日間でした。私が2日間で感じた「感動」をベースに言葉にしたいと思っています。

(わざわざに価値がある)

空港に着いて、松原酒店の松原さんが出迎えてくださいました。お忙しい中、わざわざ空港にお出迎えいただいたことだけでもありがたいのに、朴の森に急遽送ってくださいることになりました。そのため

に、わざわざご自宅まで戻られて車を乗り換えてくださって送ってくださいました。朴の森のお昼ご飯、運営として食事グループを明示する札を準備するのを失念してしまいました。そこでわざわざ、スタッフのみなさまが気を利かせてくださり手作りの札を裏紙を使ってつくってくださいました。藤野先生は、わざわざ、懇親会の座席に一人一人に向けたメッセージカードを準備してくださいました。2日目、トイレ掃除実習にて掃除用の履き物を忘れてしまった方がいることを事前に考え、わざわざスリッパを準備しておいてくださっていました。鍵山先生は「人を喜ばす基本は、自分の手間を使うことです。安易な方法ほど伝わりません。手間ひまを惜しんでいる人に、真の心は宿らないからです」と「わざわざ」の価値について述べていらっしやいます。小さな気遣いの中に、大きな感動を覚えることが何度もありました。安易な方法に逃げず、手間ひまを惜しまず「わざわざ」を大切にする自分でいられるように努力していきます。

(実践報告)

今年から新しい取り組みとして、実践報告をして共有する時間を設けました。教師塾の場は、「非日常」です。それを仕事で、家庭で、一人の時間で、つまり「日常」の中でいかに実践していくかが何よりも大切です。去年の教師塾から1年間たち、2回目以降の参加者のみなさんが日常でされている小さくも確実な実践の数々に心打たれました。教師塾の学びをもとに、日常で実践が続けられている仲間が全国にいることを思うと、自分も今日一日頑張ろうとい

う気持ちになりました。それぞれのみなさんの実践に、それぞれのドラマがありました。初参加のみなさんの参加に向けた思いと実践報告をされたみなさんの実践を胸に、日々の生活で鍵山哲学と掃除を具体的に実践していきたいと思いました。

(それぞれの前進)

リーダーを務めてくださった方々、中学生の思いが書かれた模造紙、実行委員も含め、ひとりひとりの前進と成長を感じました。自分もみなさんと切磋琢磨しながら、まずは鍵山先生の心願である学校でのトイレ掃除を深められるところまで深め、一人掃除も継続し、幸一郎さんが示してくださいました「自分は二の次」という人間になれるように、日々努力していきたいです。

最後に、多大なるご支援をいただいた幸一郎さん、事前の準備と当日のきめ細やかなおもてなしをしてくださった朴の森のスタッフのみなさま、いつもご厚意で学びの場を提供してくださる牟礼中学校の校長先生をはじめ、教頭先生、田中先生、山口先生、このたびは誠に有難うございました。

★★ 神奈川県 一般 ★★

まずは、このような素晴らしい会に参加させて頂き、ありがとうございます。また企画、準備、そして当日の運営等に携わって下さった皆様、本当にありがとうございます。私は昨年に続き今回2回目の参加となりました。昨年初めて参加させて頂いた際は、参加者の皆様の情熱に圧倒され自分はまだまだと痛感致しましたが、それでも皆様より『気付き』

の部分で多くの事を学ばせて頂き、職場において皆んなで小さなゴミも徹底的に拾うという習慣付けをもたらす事が出来たのではないかと考えております。さて、今回は昨年学ばせて頂いた『気付き』から更に発展した『気付きの連鎖』といった状態がより良い環境作りに必要不可欠だという事を学びました。

教える、教育する、訓練する、こういった事もより良い人を作り、より良い環境を作るためには必要なものではありませんが、誰かが始めた良い事を誰かが見て(気付いて)、その人も誰に指示されたわけでもなく同じように良い事をする。こういった連鎖がおきると気持ちの良い職場や環境が整備されるのではないかと思います。こういった『気付きの連鎖』は自分自身でまずは視野を広げる事から始まるのではないかと思います。初日に職場(倉庫)でのゴミ拾いのお話をさせて頂きましたが、視野を広く持ちゴミ拾いを行うと今度は倉庫内の棚の商品の置き方に目が向きます。こう置いた方が商品を取り出したり数を数えたりしやすいのでは？または、こう置いた方が綺麗に見えるのでは？この商品はここの棚ではない、など別の気付きが生まれます。そのように次に棚の整理を行なっていくと、今度は棚のレイアウトも変えた方がいいのでは？とまた別の気付きが生まれ、結果的に効率の良い仕事が出来るとような環境作りが出来るようになります。気付き、広がり、そして結果として仕事もしやすくなる、こういった連鎖が起きるように心掛け、実践を行って参りたいと思います。初日の実践報告の中で、子どもたちが率先して周りを引っ張る子、そしてそれに続いてしっか

りついていく子等、自らが気付き役割分担をし、しっかりその課題に向かつて取り組んでいく。これが本来あるべきコミュニティのスタイルなのではないかととても感動しました。日常生活の中で今以上に視野を広げると、大人や子ども等関係なく学ばせて頂けるようなチャンスがたくさんあると思います。今回掃除の中で褒める言葉が飛び交っていたり、ポジティブな会話もたくさん耳にする事が出来ました。気付き、そして周りとの高め合いの中で、自身ももっと成長しなければと感じさせて頂きました。今回学ばせて頂いた事を振り返り、自分自身への成長へと繋げ、来年また教師塾に参加させて頂けたらと思います。ありがとうございました。

★★山口県 一般 ★★

今回、初めて鍵山教師塾に参加させて頂きました。2ヶ月前に初めて鍵山記念館を訪れてから、「山口市掃除に学ぶ会」にも参加させて頂き、道具を大切に扱うこと、無駄をなくすこと、チームワークを学ばせていただきました。そして今回の教師塾もですが、初めて参加する者を困らせない雰囲気、お気遣いを感じました。初日は午後途中からの参加だったのですが、藤野先生が「席ここが空いてるよ」と、どこに座ればいいのか困らないように声を掛けて下さったり、お茶のペットボトルには名前が付いていたり。鍵山幸一郎代表も施設内を丁寧に説明して下さり、気さくに声を掛けていただいたり、こうした心遣いがとても嬉しく感じました。懇親会の席に書かれた藤野先生の直筆のメッセージも大切に持

ち帰らせていただきました。2日目トイレ掃除には急遽、娘も参加させて頂きました。娘はたった一回の掃除ですが、その後に食べた物を言われなくても自分で片付ける（私たちの分も）といった変化が見られて驚きました。私自身まだまだ「鍵山掃除道」に学ぶことがあります。口先だけではなく身体を使う。先ずは自分の身の周りから小さく事を積み重ねていきたいと思っています。鍵山幸一郎代表、藤野貴之先生、朴の森スタッフの皆様、教師塾を準備して下さいの皆様、参加された全ての皆様に感謝申し上げます。

★★沖縄県 教員 ★★

昨年異動してきた学校は荒れに荒れていた。昨年度だけで4人の先生方が病休を取られた。給食後には中身の入った牛乳のパックが2階や3階の窓から投げ捨てられた。教室で水風船を投げ合う姿が日常の中にあつた。トイレも荒れた。お菓子のゴミやタバコの吸い殻が落ち、トイレトーパーが燃やされた。休みの日が明けて学校に来ると、学校中のトイレトーパーが中庭に投げられているといったことも1度や2度ではなかった。この状況を変えたいと思いながら1年が過ぎてしまった。春先、大学の頃の友人である村田陽くんに連絡を取った。彼が埼玉便強会でトイレ掃除の実践を重ねていることは聞いていた。2年目を迎えるにあたって「以前から聞いていたトイレ掃除の実践を、うちの学校でもしてみようと思うがどうだろう・・・」と相談してみた。

村田くんは「是非やってみたらいい!」と、「日本を美しくする会」の会報と、研修の案内を送ってくれた。すぐに学校長に相談し、トイレ掃除の実践を行う許可をもらった。日本を美しくする会、沖縄の世話人の方々に連絡を取ると、こちらも二つ返事で喜んで協力しますとの返答をいただいた。最初の実践日が7月5日に決定した。本校での実践に先立って、自分自身も掃除の実践を学びたいと考え、この研修会に申し込みを行った。右も左もわからないまま参加した研修会は驚きの連続だった。研修前の時間、岡本さんからいただいた倉庫の紹介から「ここまでやるのか・・・」「ここまでしているのか・・・」「ここまでできるのか・・・」で溢れていた。この後のすべての研修がそうであつたが、どのお話にも、ドラマがあり、深みがあつた。細心の心遣いがあった。研修前の課題図書の中にも何度か出てきた「頭を使うなら心を使え」「心を使うなら体を使え」「体を使うなら頭を使え」、それらが隅々まで見て感じられるものであつた。言葉で話されている内容と、実際の活動がしっかりとリンクしていることに驚かされた。活動が言葉以上であることに驚かされた。言葉は簡単に飾れるが、岡本さんたちの話される言葉には虚飾がなかった。倉庫を見れば「一目瞭然」という状態だった。ただ、その一目瞭然と思ったことは私の大きな勘違いであることを後から痛感した。一目瞭然などではなく、その場だけでは見えない部分までの心遣いがあることが研修を進めるほどに感じられた。この研修期間、自分自身は多くを学んだという実感があつたが、1泊2日だけでは見えない部分、

感じきれない部分が数多くあっただろうことを痛感している。今の私では見えていない心遣いが少しでも見え、自分でも、そんな心遣いができる人間になることを、この後の生き方の大きな指針にしたい。

講師の皆さんや、参加された皆さんを見ていてそう思った。鍵山幸一郎さんのお話はどのお話の中も暖かみを感じられるものだった。その中でも「どう生きようが後悔は避けられない。避けられない後悔なら、どうせ残す悔いなら、レベルの高い悔いを残せる人生を目指したい」というお話が心に強く残っている。何かをやり切ることを、達成することを目標にするのではなく、行動の目標だけは、生きていく目的だけは見失わずに、たとえ中途挫折になろうと、その方向に向かう中で最後まで生き切りたいと、お話を伺いながら強く思った。この後の生き方を規定していく大事な言葉をいただいたと思っている。藤野さんのお話からは勇気をいただいた。現場の中で大きなマイナスを急にプラスにかえることはできなくても、マイナスに向かっていく矢印をプラスの方向に変えることはできるかもしれない、その方向転換のきっかけとなるのが掃除の取り組み。実際にこれから取り組んでいく前に、藤野さんのお話が聞けてよかった。心が勇気づけられた。

2日目のトイレ掃除の実践では幸一郎さんの班に入っていたとき、実際にトイレ掃除の一つ一つの作業や、その考え方を目の前で伝えていただいた。上場企業のトップに立って経営をされていた方が、言葉だけでなく真摯にトイレ掃除に取り組む姿を間近に見せていただいた。研修の中で繰り返しお話しされ

ていたことを、ご自分の姿で示していただいた。下座行という言葉を、言葉の上では知っていたが、こういう姿勢を貫くことが下座行なのだと感じられた。言葉が腑に落ちた。頭だけでなく、腹で、心で、大事なことを理解させていただいた。感謝しかない。私自身はまだ何も実践できていない。まずはこの研修の中でいただいたことを今週末に迫った自校での実践に結びつけていく。今回、お世話になった方々のような生き方を、少しでも、しかし着実に、目の前の教育現場で実践していきます。

研修を企画し、関わってくださったすべての方々、参加して一緒に学ばせていただいたすべての方々に感謝しています。ありがとうございました。また、いつか。

★★ 山口県 保育士 ★★

鍵山教師塾「三朴の森」「心願」に参加して今回、参加させていただくかとても悩んでいました。志の高い皆さんの中に私が入ってよいのだろうか。と。その時、「自分が学びたいかどうかではないか」という声をかけてもらいました。それから自分はどうしたいのかを考えると、やはり皆さんから学びたい！掃除に学びたい！気づける人になりたい！学びを活かしたい！と思い参加を希望しました。会場に入ると、感動と学びが盛り沢山で不安がワクワクに変わっていききました。まず、きれいに掃除されているお庭、きれいなグルグルの線が引かれていた砂紋。凄く素敵だな、おもてなしの気持ちが嬉しいなと感じました。そして、記念館に入ると穏やかで温かい

雰囲気。忘れ物をしてしまい、わざわざしていた私の心は、みなさんのおかげで落ち着いていきました。講話の中で登場した「わざわざに価値がある」は、二日間の中でも身をもって感じました。懇親会の席には、藤野先生からの手書きのメッセージカードのサプライズ。お忙しい中、わざわざ時間を作り準備してくださったのだと思い、そのお心遣いに感動しました。懇親会後にどんな（うどんなやさん）へ連れて行ってくださった岡本さん。十人のためにわざわざマイクロバスを出してくださいました。うどんなおもしろかったですし、おかげで、みなさんとの心の距離も縮まったように思います。まだまだあった、たくさん「わざわざ」に皆さんの優しさや、温かさ、心遣いを感じ、嬉しい気持ちになりました。私にもできること、小さいことから探してやってみようと思います。お掃除の実践では、「ポイントを絞って集中して掃除しましょう」ということでした。便器に焦点を当て、始めと終わりに観察時間を取り、ビフォーアフターを自分の目で見て確かめ報告し合うという方法でした。「ここは、掃除のやり方を学ぶ場ではないので」と。黙々と汚れと向き合え、時間はあつという間に過ぎました。終わって気づかせていただいたことは、周り比べるのではなく、自分の便器がどう変わったか、掃除しながら何を感じ、何を考え、どう動いたかが大切なのではないかということです。講話をいただき、皆さんと一緒に過ごさせていただいた二日間の中で、感じ学んだことを日々の生活の中で、重ね合わせながら実践していきます。保育園では新しくお子さんを迎え、担任をも

たせていただくことになりました。心を掛けて準備し、安心して過ごせる空間を作っていきたいです。二日間、本当にありがとうございました。

★ ★ 山口県 小学生 ★ ★

便器の汚れはすごかったけれど、優しく教えてくれてきれいになって嬉しかったです。まわりの人を真似して掃除してみるとザラザラがツルツルになって、真似するっていいなと思いました。また参加したいです。

★ ★ 京都府 京都掃除に学ぶ会 ★ ★

2日間の朴の森研修にて、皆様と学ばせていただきありがとうございました。まずは、この場を継続的につくってくださった鍵山幸一郎様、藤野先生をはじめとする朴の森スタッフの皆様、そして運営委員の皆様に厚く感謝申し上げます。

まず一番に感動したのは、代表者3名による実践発表でした。それぞれの場でお掃除を地道に積み重ねていくことで、子供たちや教師、保護者を巻き込みながら活動が広がっていくプロセスに感銘を受けました。山崎小学校での活動で、生徒、保護者だけでなく、卒業生しても中学、高校、大学とずっと縁が続いていることに驚きました。まさに“深めれば広まる”最たる事例です。また、渡邊育美さんが鍵山秀三郎さんの言葉を紹介しながら、子供たちの方からお掃除をしたいと火を付けられる進め方にも考えさせられました。誰でも上から目線で押しつけられては、いいものであっても興味を持ってません。

そして、西橋先生が全教員を巻き込みながら、掃除道具と道具置場の根本的な改革は写真からも伝わってくるように圧巻でした。ここまでの取り組みは周りのからの信用がなければできません。すべては掃除の積み重ねによって醸成された信頼の賜物なのでしょう。私は、3名の発表を通じて、ホンモノ（掃除）は子供たちに強く響くし残るのだと実感しました。それは、やはり子供たちに純粋な心があるからなのでしょう。また子供には、大人や関係者を巻き込んでいく力があることも感じました。

一方で私が置かれている環境で考えてみると、社会人ばかりの環境では素直さが乏しいため、地味で仕事の結果につながりにくい掃除は見向きもされません。その中で、どのように仲間や共感者を得ていくか大きな課題を感じました。それには、できるだけ子供たちのような純粋さ、新鮮さ、何でも興味・関心を持つ吸収力を養って、“感動が生まれるお掃除”を実践することだと思いました。そして、自分に足りないその純粋さは、「ホンモノを求める真剣さ」のなさだということが、はっきりと気づかされました。「ホンモノを求める真剣さ」がなかったから日常に戻ると、簡単に、易しくて、得する方に流されてしまいます。自分を固く律することができなかったのは、「ホンモノを求める真剣さ」がなかったと気づきました。毎日のお掃除が続けられなかった真因もそこにありました。朴の森での研修後、私は何をすべきか考えたとき、まずはホンモノとは何なのか、多くの人が認める「ホンモノ」に接して深めたいと思います。そうして、自分なりのものさし、軸を確立

して、断行したいと思います。振り返れば、日常の些細な欲望にも引き回され、時間をムダにしていることをひしひしと実感しています。牟礼中学校の掃除活動が確実に次代へと引き継がれて、進化していることを聞かされ、確かなことはこの地道な継続にあるのだと考えさせられました。「抜本塞源」で、根本から改め日々の掃除の実践を深めて参りたいと思います。皆様には、今後ともご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

★ ★ 広島県 一般 ★ ★

心を磨く2日間、鍵山教師塾にて、このたび、初めて鍵山教師塾に参加させていただきました。「鍵山掃除の心につれたい、学びたい」と願いつけてきた思いがようやく叶った、感動の2日間となりました。1日目の座学で特に心に残ったのは、幸一郎代表のおっしゃった「続ける」という言葉でした。学んだ直後は感動もあり、数回は実践できるかもしれませんが、それを“続ける”ことこそが本質であり、その積み重ねが人や出来事と繋がっていくのだと深く感じました。懇親会ではそのお話が「経営」という観点と結びつき、「やめれば終わるけれど、続けていけば、もしかしたら明日にでも結果が出るのだってあるんだよ」というお言葉を頂き、胸が熱くなり、勇気が湧いてきました。2日目の掃除では、利会長の「五感を使って掃除をするんだよ」というお言葉も心に残っています。汚れの臭いは決して心地よいものではありませんが、それが取り除かれ、指の腹で感じていた

いました。

★★ 福岡県 一般 ★★

【掃除に学ぶ、という生き方】(朴の森での『鍵山教師塾』掃除の実践研修を終えて)

「ひとつ拾えば、ひとつだけきれいになる」この鍵山秀三郎先生の言葉が、こんなにも深く心に染み入ったのは初めてでした。先日、山口市にある朴の森を訪れ、「掃除に学ぶ会」の一環である鍵山教師塾に参加させていただきました。朴の森は、鍵山先生の思想が息づく、木のぬくもりに包まれた学び舎であり、まさに「素直な心」を取り戻す場でもあります。初日は、現役の先生方による実践報告に感動し、教育現場で「掃除」を通じて子どもたちに何を伝えようとしているのか？その熱意に圧倒されました。そして翌朝、ご縁のある中学校でのトイレ掃除の実習。「掃除ぐらいなら、まあ何とかなるだろう」と高を括っていた自分が、2時間後には反省しきりでした。天井の換気扇から壁、便器の裏、扉の縁、排水口、床のすみっこ…日頃、目を背けがちな場所を磨き上げる、本気の掃除。初心者の私は、経験豊かな岡本リーダーに即、指導を受けます。「久保山さん、左手が遊んでますよ。」「便器はね、腰を落として、しっかりと握る“んです。”その言葉に、一瞬戸惑いながらも、少しずつ掃除が“作業”から“学び”へと変わっていく実感がありました。年齢も立場も関係ない。ただ目の前の汚れと向き合い、無心に手を動かす。その時間は、まさに“人生の垢を落とす行”であり、自分自身の内面と対話する機会でもありまし

た。トイレ掃除という“人が敬遠しがちなこと”に真正面から取り組むことで、私自身、静かな感動に包まれていました。そんな中でふと思い出したのが、鍵山先生のこの言葉でした。「感動こそ人生。人を感動させる生き方を目指すならば、まずは自分が感動できる人間になること。」トイレ掃除という“人が敬遠しがちなこと”に真正面から取り組むことで、私自身、静かな感動を得ました。では、この体験をどう活かしていくのか。どうすれば、この学びを次の人へ、そして社会へとつなげていけるのか？「掃除に学ぶ」を一過性の体験にとどめるのではなく、日常のなかに根づかせ、広げていく活動へ。新たな課題を頂きました。今後は、身近な実践を通じて自分なりの問いを深めていきたいと思っています。

最後に、この研修の場を提供し、様々なご支援をしてくださった鍵山幸一郎さんをはじめ、藤野貴之先生、朴の森の皆様、そしてご一緒させていただいた先生方に、心から感謝申し上げます。掃除の先に広がる“人づくり”という道を、これからも皆さんと一緒に歩んでいきたいと思っています。貴重な機会を下さり、ありがとうございました。

★★兵庫県 神戸三宮・西宮掃除に学ぶ会 ★★

鍵山教師塾への参加は、鍵山相談役を直接存じ上げない私自身が、鍵山掃除道をいかにして若い世代に伝え、広めていくべきか、その氣づきを得たいという思いからでした。二日間の研修で得た学びと氣づきを、以下の三点にまとめて感想といたします。

■近者説、遠者來

ざらつきがなくなっていくうちに、清々しい気持ちに変わっていくのを体感しました。そして何よりも、掃除は一人でやるものではなく、チームで取り組むからこそ成り立つものだ実感しました。リーダーの悠味子さんの的確な指示、サブリーダーの路佳さんのリーダーを支える細やかな配慮、そして掃除に取り組む仲間たちの声かけの力が合わさって、より美しく仕上がっていく——そのプロセスを体験できたことは、これから仲間を増やし仕事を進めていく私にとって、大きな財産となりました。私は広島から参加いたしました。そのり道、ひとつの出会いを思い出しました。中学生のとき、ご縁をいただいた被爆者・沼田鈴子さんが、こんな言葉をかけてくださいました。「どうか、あなたたちは一粒の種になってください。思い続けること、その思いをご縁をいただいた誰かに話すこと。そうすれば、その方もまた種になってくださる。そして、きっと小さな芽がこちらにしてくれるのです。」あのととき十五歳だった私は、その言葉の深さを今、ようやく受け止められるようになった気がします。今回の学びを、日々の暮らしや仕事の中で大切に続けていくこと。その積み重ねが、やがて社会を少しずつ変えていく力になると信じています。私自身もまた、一粒の「種」となれるよう、今一度、自分を見つめ直したいと思います。

最後に、運営スタッフの皆さまの温かく行き届いたご配慮、そして参加者の皆さまの穏やかな空気感、掃除会場をお貸し下さった牟礼中学校様、心より感謝申し上げます。このたびは本当にありがとうございました。

一日目に利哲雄さまが、「深めれば広がる。続ければ広がる。(人々)呼び込むためには、楽しい雰囲気(づくり)が必要。」と話され、大きな気づきになりました。これまでの掃除に学ぶ会を振り返り、私は参加者のみんなが心から楽しみ、感動できるような場を提供できていたのだろうかと思えさせられました。あらためて、身体を使い、頭を遣い、心を遣った掃除をし、参加者と共に楽しめる場作りをしてまいります。

■トイレ掃除に学ぶ場・機会の創出

兵庫県では、以前は学校のトイレ掃除を実施していましたが、現在は休止しています。二日目に、「学校で掃除の時間が減少している今こそ、掃除に学ぶ価値が高まっている」というお話がありました。牟礼中学校での掃除実習で得た学びを活かすためにも、兵庫県内でトイレ掃除に学ぶ場や機会を創出することが必要だと痛感しました。兵庫県内での活動再開に微力を尽くしてまいります。

■価値観共有掃除

2024年の十一月に、「掃除に学ぶ研修 三木森」に参加し、価値観共有掃除という考え方を学びました。今回の鍵山教師塾では、どのような価値観が、どのように共有されていくのかを考えながら参加しました。そこで、「掃除は、人と時間・行動を共にするため、目的と価値観を共有できる。」という掃除の意義と効用を再認識しました。

この考えを、私自身がまず深め、私たちが仕事で関与している経営者の方々にも、広めてまいります。貴重な学びの機会を与えて下さり、本教師塾の運

営に携わってくださった全ての皆様、および、牟礼中学校の先生方に心より感謝いたします。ありがとうございました。

★★山口県 山口市掃除に学ぶ会 ★★

鍵山教師塾では大変お世話になりました。

今回は二日目のみの参加でしたが、二日目のトイレ掃除で手を動かし、みんなでするからこそ観えてくるものがあることを味わうことが出来ました。

便器と向き合うなかで、わたしから観えてくるもの。

この便器は普段どんな扱いを受けているのだろうか、そして同じ空間で便器に向かう別の人から観えてるものを共有していただくことでわたしにはみえてない視点に気付かせていただけることの大事さを知りました。

以前掃除に学ぶ会の時に「共同作業が苦手」というわたしの言葉に「同じ場を共有している」と言った言葉をいただいたとおもいます。(不鮮明ですが)その時はよくわからなかったのですが、今回少しその意味を腑に落とした気がしました。別々の位置で便器に向かってても場は共有している。わたしには観えていないものを沢山観せていただけ。そして相手に「気を使う」と「察する」のはまた別で、便器の気持ちになって磨くように、相手の気持ちになっただけいいんだと気付きました。そして掃除の後の感想の共有。こちらから学べることの多さにも感動しました。リーダー達と目線はまたわたしとは全く違ってそこに気をかけるのか！と新しい視座を持つことが出来ました。持ち場に帰ってからは、

今までわたしの気持ちを押し付けていたところを、相手はなぜそのような行動をするのか？という視点でみているのか？どうしたらスムーズにいくのか？という相手目線に立ってみていけるような行動をとっていきたいと思います。それは人に対してだけではなく、つい忘れてしまいがちなモノに対して、モノの気持ちになって考える。物事の向きについて日々問いながら家庭や仕事に生かしていこうと思います。一方通行だった向きを気付かせていただきありがとうございます。鍵山教師塾の開催にむけ長い期間、準備、運営、当日の進行をしてくださった幸一郎さんはじめ、運営の皆様、ありがとうございます。この経験を活かし微力ながらより良い環境に向かいますよ精進していききたいと思います。

★★大阪府 大阪掃除に学ぶ会 ★★

感動に尽きる

教師塾 三木の森に全国から集まる人は何か特別な「熱意」「情熱」を感じる。しかも、それは回を重ねるごとにその熱量は増していると思える。一年ぶりに再会できた人、初めてお会いする人、皆、高い志を持って日々努力を重ねているのが顔つきや背中を見て感じ取れる。過去の会は本の感想の共有や講話、トイレ実習前の実演が多く占めそれはそれで新たな気づきや発見といった貴重な学びでした。今回は一分間で日頃の取り組みや意気込みの共有を行うはずが5分以上話す人もいた。決して悪いこととは感じない。むしろそれだけ教師塾 三木の森に「来れる人」の一人一人の考え、心持、実践は深く広い、掃

森に集まり「感動」を分かち合えた皆様に感謝です。
ありがとうございました。

★★ 神奈川県 一般 ★★

鍵山教師塾感想 三朴の森を終えて

今回は鍵山秀三郎さんの掃除、生き方への学び、また日々実践を通して活動されている皆様のお話を聞く機会を頂けまして有難うございました。また施設の方々の沢山のお心遣い、教えてくださった鍵山さん、藤野さん、岡本さんやご準備くださった実行委員の皆様ありがとうございました。この二日間を通して参加の皆様のご自身の持ち場で本気の思いで日々実践をしている熱量とお話は自分自身の心にとっても響くものがありました。また心に残し反復したい言葉も沢山お聞きすることができました。改めて鍵山先生の生き方、教えには共通の言葉としても広めたいものが沢山詰まっているのだと感じることができました。少しでも心に残したく日めくりカレンダーの「良樹細根」を購入させていただきました。藤野先生のお話の中で「深めれば広がる」ということは自分の中に落ちるまで時間がかかるから一旦は言葉を持ちそして実践をすること。段々と腑に落ちてくる、もしかしたらこういうことかと見えてくるとお話しされていて何事も素直に受け止めてやってみることに、徹底的にやり続けることの大切さを感じました。凡事徹底という言葉は十一年前に会社に入社して初めて知った言葉でした。正直始めはよくわかってなかったと思います。誰にでもできる簡単な

除の活動のみならず日々の生活にもつがることを共有いただいた。前回から掃除を始めたがまだまだ未熟ですと語った人、前回の学びをまとめ書き残している人等々、こういう心の持ちようがあるのか、感動を与えると人は行動し、良い影響は「和」となっているのか、繋がついていくということなんだ。特に「深めるから広がる」という言葉には説得力があり心に響いた。私は転職して2年半ほど前から出勤日は毎朝会社の近くの小学校の横にある公園から会社まで25分ほど手拾い掃除しているが、やっていると「いつもありがとうございます」「君偉いね。見習って何かやらんといけんなと思うよ」といつてくれる人はいるが、やっているのは私一人。多分、そうじゃない。「深めるから広がる」。良いものは伝えるべき、というより共感してもらい、少しでも同じ実践を重ねる人を増やしていくことが重要だと思いました。教師塾の次の日から小学生、犬の散歩している人、学校職員問わず「おはようございます」と挨拶を始めています。早速私に視線を向けるようになった（もしくはより視線を向けるようになった）学生がいます。一緒にゴミ拾いをやってくれるかは別として頃合いを見て声掛けをしてみようと思います。最後になりましたが、教師塾 三朴の森の実行委員会の方々、今年度も開催いただき貴重な時間を創造いただきありがとうございます。また、西橋さん、石川さん、ヒサさん、沖野さん、咲都さん。2日目のトイレ実習ではつたないリーダーでしたが、皆様のおかげで楽しく、且つ学びの深い時間を共有出来たことを今でも嬉しく思います。最後に教師塾 三朴の

ことを疎かにしていることも多かったです。鍵山掃除を学ぶ人が社内でも数増えできたこともありまし、私自身人の上に立ち部下が増えるに従い伝えることの難しさに直面してきました。藤野先生がそういう時は掃除がいいよと教えてくださいました。見えないところも丁寧にこだわりの持ったやり続けること、物や道具を大事に扱うこと、相手もことを考えることなど、先ずは自分が徹底してやり続けることが大事だと感じました。一人でも共感してくれる仲間が増やしていけるように日々職場で実践を行いたいです。山崎さんのお話にあったように自分本位から他人本位になって相手も喜ばせたいという思いで日々実践して継続することを大事にしたいと思っています。岡本さんからは掃除道具置き場でお話を伺えました。先ずは三〇年使った塵取りに感動です。倉庫を今よりも良く育てて欲しいと鍵山さんよりお話があったと言われていましたがずっと小さな進化をされ続けていることが伺えました。本当にこれでもいいのか、これがベストなのか考える、皆で知恵を出す、皆で職場を育てるという考え方は私の職場でもぜひやっていきたいと思っています。職場は違いますが店舗は育てていくものと考えているので先ずは掃除道具置き場の見直し、生産力ウンターの道具の置き場、手入れ、ルールの見直しから進めていきたいと思っています。またお話の中に殆どの原因は上司の指示の出し方にある、また整理整頓されているとより具体的に指示が出せるというお話が納得できました。カネヨンのキャップの話も印象的で掃除後にキャップを洗うこと、汚れていると次に使うときにイラッ

とするかもしれない、イラっとしないような後始末をする。些細な事のようにも思いますがこの小さなこだわりの積み重ねで良い人間関係、効率的な良い職場は生まれそうです。感じたこと全てを言葉でお伝えするのが難しくはありますが私自身参加して自分身の未熟さも感じながら職場で日々自分ができていることを考えて継続して実践していこうと思えました。相田みつおさんの「口ではなあ」にならないように行動できる人でありたいと思います。また「わざわざ」を沢山の人に与えられる人になりたいと思います。短い間ではありましたが多くの学びができました。二日間沢山の学びを頂きましてありがとうございます。

★★ 大阪掃除に学ぶ会 兵庫県 ★★

鍵山幸一郎様、朴の森研修スタッフの皆様、及び運営の皆様、この度は貴重な研修の機会をいただき、誠にありがとうございます。今回で私のアルミ缶が7本になりました。非常に感慨深く感じます。ろくすっぽ研修の用紙を確認もせず、まさか自分が掃除のリーダーとして任命されるとは思いませんで、驚きとともに身の引き締まる思いで臨ませていただきました。リーダーとして皆さんと一緒に清掃に取り組む中で、「今日一日来てよかった」と参加した方の割強が思っていただけ4班の掃除を担当できて良かったです。今回の教師塾は「塾生で作り上げる教師塾」であるなど一日目の座学から思っていました。幸一郎様や藤野副代表から直接的に掃除のマニアックな概念を学ぶ事の方が私個人は好きですがや

はり、今回は山崎先生を始めとした教師塾の中心の方々がやってこられた実践の事を伝えていただいて自分の現状と照らし合わせたりなどという事ができる時間は改めて非常に大切だと感じました。私のホームグラウンドの清掃はお初天神という所の掃除です。飲み屋街であり、なおかつ大阪という土地柄が、汚物を多数処理します。掃除仲間の方もはつきり「やりたい」と思って処理してる人はいません。ですが、「できる人がやらねば仕方が無い」です。そういう面ではこの教師塾にこられてる方は『幸一郎様よりお相伴がはずかれる』からきているという人は皆無に等しく。反対に「なんとかしなければならぬのだけどやり方が分からないからきた」という発憤の心で来られている方がほとんどであろうと私は行くたびに感じています。私は学校ではよく爪弾きにされてきました。しかし、ここの教師塾の先生方が自分の教師であればまともな就職を選び真っ当に生きてたやもしれません。真っ直ぐで居られなかったからこそ、私は今改めて皆様より学びを得ることが出来る実感がございます。素直に感謝です。本当に2日間ありがとうございました。

★★埼玉県 教員 ★★

【二日間の学びについて】

教師として、同じ仲間の実践を聞けるとても貴重な時間でした。この二日間で私は、秀三郎先生の「後始末は前準備」「わざわざに価値がある」という言葉の意味を身をもって理解しました。まず、それぞれの実践発表からは、学校現場での実践の仕方を詳し

く知ることが出来ました。常々掃除の用具の扱い方やしまい方についてどうにかならないものかと思っていたけれど、西橋先生の実践から勇気もらってみたいという気持ちになりました。掃除用具の大改革を行うにあたっての注意点や心配事項等の話も伺うことができ、まずは自分のクラスから行いたい。山崎先生の実践からは、「学び×実践」感動の連続」ということでこの会の意義のような大切な部分を教わった気がします。会の最初に聞けたからこそこの二日間の学びをより良いものにするための心がけというか覚悟というかそういったものを自分の中で準備することができました。「深めると広がる」を意識して二日間を過ごせたことは、私の中で大きかったです。「学ぶからこそ実践をし、実践をするからこそ感じるものがありさらにまた学ぶ」といういいループになる。」ということでも準備の大切さ、それが後々につながる重要さを実感しました。

久しぶりに行ったトイレ掃除では、私が日頃行っている学校での教育活動を振り返る機会になりました。「具体的に指示をする」「互いにわかりやすい、行いやすい環境」「手本の大切さ」について考えさせられました。学校現場では、思考力や主体性を重んじており、しっかりインプットを行っていないのにアウトプットを求められるようなことが多々あり違和感がありました。子ども達が考えて行動できるような環境は整えられているのか、私は的買うな指示を出せているのかなど、自分の行っていることにもどうなんだろうと思うこともありました。しかし、トイレ掃除を行う中で上記の3点大切さを改めて感

じたので、それらを日々の教育活動や子ども達への接し方に生かしていきたいです。

【感動したこと】

この教師塾に参加される方はただ者ではないということは重々承知の上だったが、私の想像以上に素敵なおもてなしから感動しっぱなしでした。きっと私たちが到着するずっと前に空港でスタンバイされていただろうに、到着人数を聞いて、急遽車を替えにいったくだった松原さん。私は「わざわざに価値がある」という鍵山先生の言葉が大好きだったので、すぐに心打たれました。また、朴の森に着くと丁寧なスリッパが並べてあったり荷物置き場がにシートが敷かれていたりお茶一缶ずつに名前が記してあったり。昼食時の片付け方やそこで使う紙で作られた箱にも感動しました。効率が良いくてゴミが最低限になる片付けはとっても気持ちが良いものでした。また、ずっと憧れていて行ってみたかった慈愛の里の園舎や遊具には、先生方の愛がいっぱい詰まっているなと感じました。子どもの目線でものごとを考えるとこういうことを目の当たりにしました。掃除ロッカーの写真撮っていると、「掃除の時間という特別なものではなく、日常の中で自然と行ってほしいんです。」と語った先生の眼差しがとても優しく、それはや法律等で決められた教育活動ではなく人としての育てることをしているなと思い、自分自身の心にとっても響きました。そしてなにより、朴の森の皆様ははじめここに集ってきた人はみんな秀三郎先生が大切にしてきたことを守っていいこう伝えていこうと

いう思いがひしひし伝わってきて本当にあたたかい会で随所に感動がいっぱいでした。

【これから自分の持ち場で実践していきたいこと】

- 1、掃除用具ロッカーの整理整頓（必要であれば修理、交換等も）
- 2、子ども達と掃除の実践→早速、子ども達と話し合い月曜日の朝の時間に掃除を行うことになり続けています。
- 3、「自分は二の次」という精神を常に持ち続ける

★★ 大阪府 大阪掃除に学ぶ会 ★★

鍵山幸一郎様、藤野貴之様始めお世話下さいました皆様心より感謝お礼申し上げます。

朴の森 鍵山秀三郎先生の願い。日本の将来は子供達の教育にある。一番の近道が掃除に、自ら掃除に学び実践継続し精査することにより実現するとお教え学び場。

鍵山秀三郎先生は日頃から教育者、先生の役割の大きさ深さをお教えくださいました。誰もが簡単にできる掃除に含まれる意味意義を学び、人として生まれ与えられた使命を果たさなければならぬ。

今回朴の森鍵山記念館に集った皆様の思い目的をしっかり持ち参加された方々、既に実践より深く高みをと熱情感動が伝わって参りました。朴の森 鍵山記念館 参る度背筋が伸びる聖地です。直接鍵山秀三郎先生からお教え学びを頂戴いたし、今回の参加を。想いを受け継がれるご子息鍵山幸一郎様のご講話そして丁寧なご案内を受けられ幸せでした。

教育の大切さ翌日の牟礼中学校での掃除実習。藤

野貴之先生の教え子の一人沖野春菜さん、前日に修学旅行藤野先生の発案？鍵山秀三郎先生の社長時代(株)イローハット様で鍵山先生の直接の研修実習をさせていただけただけ最高の思い出話され、参加は昨年に続き掃除実践は小学校4年生の息子さんと一緒5班に、4年生とは思えない隣で便器に向かう真剣さ、そして根気よく何より素直に一生懸命、母子の会話も微笑ましく、学校教育、母親の日ごろの家庭を家庭教育の大切さを学ばさせていただきました。鍵山秀三郎先生の「掃除で心の荒み無くしたい」お手本のよう拝見させて頂きました。

初日の昼食、懇親会翌日の昼食まで全て鍵山幸一郎様のご支援を賜り有難うございました。残念ながら今年1月2日ご逝去の鍵山秀三郎先生の笑顔と重なり幸せな2日間更に学び実践し広める 精進してまいります。ありがとうございます。心より感謝お礼申し上げます。「おかげさま」

★★東京都 教員 ★★

鍵山教師塾の朴の森は、今年で三回目を迎えます。一月に長年、鍵山教師塾を導いてくださいました鍵山秀三郎相談役、事務局の阿部豊様がご逝去され、四月に靖國神社で開催された教師塾にて九段の桜を見上げると、第一回目の清掃風景を思い出しました。あれから十数年が経ち、相談役の意志を受け継いだ新しい学びの形として、朴の森という場をお借りして様々なご縁をいただいたのは、鍵山幸一郎様をはじめ、藤野貴之先生、朴の森スタッフの皆様、参加者の皆様のお蔭だと思っております。

御講話の冒頭に鍵山幸一郎様が仰ったように、鍵山秀三郎相談役のようなお方は二度と現れません。自分の人生の指針を示してくださった相談役と出逢えたことで私は今、教師を続けることができております。

鍵山教師塾は掃除の実践を通して感性を磨き、鍵山秀三郎相談役の生き方に学ぶ塾です。その根本の願いは、「日本を良い国にすること」だと思います。過度な物質主義に陥った日本の行く末を考えた時、かつて日本人が大切にしてきたことは何か、なぜ掃除なのかという根本的なことを考える機会をいただきました。

藤野先生の『一日一話(古語研究所)』のお話では「素直(すなお)」とは、古字で「朴(すなお)」と読むことを教わりました。さらに成り立ちを調べると「素」という字は、糸の束を染める時の形からできた字で、結び目は染料が入らずに白く残ります。そして、その白く残った部分を「素(ス)」といい、「しろ・もと」という意味があります。また、染まっていない白絹を由来とすることから、「元のまま」「ありのまま」という意味を表すそうです。

鍵山教師塾で実践を積み重ねられた先生方の実践報告では、「本来の状態に戻す」という取り組みが教育現場の中で行われていました。全教職員と掃除用具の一からの見直し、校内の環境整備、学級指導、児童や保護者と共に駅前清掃活動など、学校や地域を通じて子供の本来の良さの引き出し、ありのままの姿に戻す力、素直な心になれる力が掃除にあるということを変更して感じました。また、実践発表された

先生方はただ単に掃除の仕方を教えたのではなく、日々、教職員や児童、保護者との関係づくりの中で少しずつ輪を広げていかれたのだと思います。以前、鍵山教師塾で相談役に「感化」という言葉を教えていただきました。

「教育とは、教化ではなく、感化である。」

「人を感化する力は、自分がいかに犠牲を払ったか、その量と質に比例する。」

第十七回目の教師塾の際に体調が思わしくない相談役がお越しくださり、そのお姿にまさに「感化」を受けました。相談役がそこまでして突き動かす思いというのは、今の世相や我が国を憂いていらっしゃるからです。その想いを胸に、これからの自分の役割を果たしてまいりたいと思います。

最後に、多大なるご支援とご指導をいただきました鍵山幸一郎様、藤野貴之先生、見えないところでサポートしてくださいました朴の森のスタッフの皆様、教師塾参加者の皆様、トイレ清掃をさせていただいた牟礼中学校の校長先生をはじめ田中先生、教職員の皆様、心温まるメッセージをいただきました生徒の皆様のお心遣いに感謝申し上げます。

★★★長崎県 教員 ★★★

「深めれば広がる」という言葉について、深く考える2日間となりました。その中で、キーワードとなったのは“気づく”ことでした。トイレの汚れに気づくこと、掃除用具の特性に気づくこと、共に掃除をする仲間の存在に気づくことなど、さまざまな気づきを得る中で、最後に気づいたのは“自分を支え

てくれる存在”であるということでした。教師塾を企画して下さった実行委員の皆さん、幸一郎さん、藤野先生、利さん、井辻さん、朴の森のスタッフの皆さん、牟礼中学校の皆さん、そして参加者の皆さんに対して、心の底から感謝の気持ちが芽生えましたが、自分自身まだまだ学ぶことは多くあるかと思いますが、この2日間で鍵山掃除道を少し「深める」ことができたのではないかと感じています。

この2日間の学びを通じて、2つの目標を持ちました。一つ目は、「掃除」を学級経営の柱にすることです。みんなが気持ちよく過ごせるクラスをつくるために、掃除を通じて子供たちと一緒に考え、実践していきたいと思います。2つ目は、鍵山掃除道を実践する仲間を増やすことです。簡単なことではないと思いますが、小さな一歩を積み重ねていきたいと考えています。一年後に皆様に良い報告ができるよう、これからも努力してまいります。2日間ありがとうございました。

★★★山口県 朴の森 鍵山記念館 ★★★

今年も鍵山幸一郎代表の多大なるご支援のもと、朴の森にて鍵山教師塾を盛会裡に終えられましたことに大変感謝申し上げます。

今年は昨年の経験もあり、運営として準備することなど見通しが立ち余裕ができました。やっと全体を俯瞰する自分が立ち上がるようになった気がします。この日集まった方々に、もう一度会える可能性を考えると、一度の機会にどれだけ、何を伝えるか、何を伝えないのか、何を重ねるうちに考慮する点が増

え、特に初めて鍵山掃除に触れる方にはとりわけ慎重になる気持ちが分かってきました。今回は自分の中の真剣の度合いや質が変わってきた気がします。

2日目のトイレ清掃は、初心者向けの班を担当しました。初心者とは申しつつも面識のある方ばかりでしたので、自分なりに落ち着いてリーダーをさせていただきました。ただ、これが全くの初対面だと気の遣い方が変わり、進行もこのように上手くはいかないのだろうなど、改めて恵まれたメンバー、サブリーダーの方への有難みを感じました。

鍵山秀三郎相談役が遺してくださった物(教訓、物事の考え方)の大きさは計り知れません。その贈り物は徐々に受け取れるようになった気がしています。それを生きているうちにどのように次世代へ渡しているか、掃除を通して多面的な観方を養いながら考えて参ります。

最後に、毎回会場を提供してくださる牟礼中学校の校長先生をはじめ、田中先生、教職員の皆さまのご理解とご協力に厚く御礼申し上げます。また、牟礼中学校在校生、卒業生有志の生徒の皆さまによるメッセージボードもありがとうございます。

昨年に引き続きお越しくださった利会長、井辻会長、そして慈愛の里、一隅の里の皆さま、朴の森スタッフの皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

★★ 大阪府 教員 ★★

「学んで終わりではなく、帰ってからの実践」

私はこれまで周りを意識して過ごしてきました。周りからはどのように見えているのだろう、こんなふ

うに思われるのは嫌だな、性格的なことも関係しているとは思いますが、自信もないのだと思います。そんな私にとって、自分の意見を他者に伝えることはとても苦手な分野の一つになります。即興で話などできず、話をするときには話す内容をノートにまとめて、頭の中で整理をしてから話をします。そうすることで脱線せずに話をするができるのですが、次はまとめていううちに、こう話したらすごいと思われるなどといった他者からの評価を気にしたことを話しようと思う思考になってしまいます。

そんなことから、肩肘の張ったことを他者に伝えることが多くありました。今回は実践発表、掃除道具説明、閉式の言葉と話をさせていただく機会を多くいただきました。話の内容が伴っているかはさておき、振り返ると自分の言葉で自分の感じたこと、伝えたいことをそのまま伝えられたのではないかと思います。それは自分の中では大きなことで、ハリボテの身体を一枚剥がせたように思います。そうなった要因の一つとして、3年間の朴の森でも学びは大きくあり、日常でその学びを少しずつ活かせてきていることが一番の要因で、自信にも繋がっているのだと思います。

鍵山幸一郎さんからは「学んで終わりではなく、帰ってからの実践」の話が今の自分の肚のすく落ちました。朴の森で学んだことをいかに自分に落とし込んでいくかということは、日々の実践の中で、繰り返し試行錯誤をしながら、積み重ねていくことしかありません。閉式の挨拶の時に世阿弥の話を例えで出しましたが、「是非の初心、時々の初心、老後の

初心」どの段階でも自分を磨き続けることの大切さを説かれている言葉であると思います。鍵山先生は死ぬまで初心、死ぬまで半人前と自身の中では思われていたのではないかと思うのですが、だからこそ、もう少し、もっと、どうすれば、という心でおられたのではないかと思います。私は人間心がすぐに出てきてしまいますが、行動・実践を繰り返すことで、行動に心や頭が引っ張られていき、人間心が小さくなっていくように思います。それは自分本位ではなく、他人本位の生き方につながることであり、ゴールのない厳しい道になるのであると思いますが、多くの方とのご縁で今の自分があるので、現実に向き合い、歩んでいきたいと思っています。

鍵山教師塾から帰ってきた金曜日に学校の草刈りをするタイミングがあったので、同僚の先生と二人でしていました。気がつくくと近くにいた学年の先生が数名手伝ってくださっていて、自分自身すごく嬉しくて感動しました。しかし、次にどう思うかという、次にまた草刈りをするときには手伝ってくれるかな?と先に思考が働いてしまうようになります。私の悪い癖です。その思考は自分を自分たらしめるものであると思いますが、それを日々の行動を通じて、行動を通じて自分自身を誘導していき、自分の中で消化していきたいと思います。結果は後から自然とついてくるものであるということ、最初からあてにすると本当に大切なものが見えなくなるということを身を持って感じる事ができました。

今回の鍵山教師塾、朴の森での学びを糧に、常に歩み進められるよう、精進していきたいと思っています。

鍵山幸一郎さんをはじめ、朴の森スタッフの方、多くの支えてくださった皆様、全国からご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

